

# 宇部市新庁舎建設基本設計(素案) 市民説明会

## ◆ 新庁舎の役割～求めるべき姿～

### “新・緑と花と彫刻のまち”宇部の美しさを感じ、まちづくりを先導する場

- 中心市街地の「中心」において、その立地特性を十分に活かし「宇部らしさ」を創出する。
- 真締川公園の豊かな自然を取り込み、市民の憩いの場となる公園のような場とする。
- 常盤通りに面した顔づくりによって、良好な景観を形成する先導的な役割を担う。

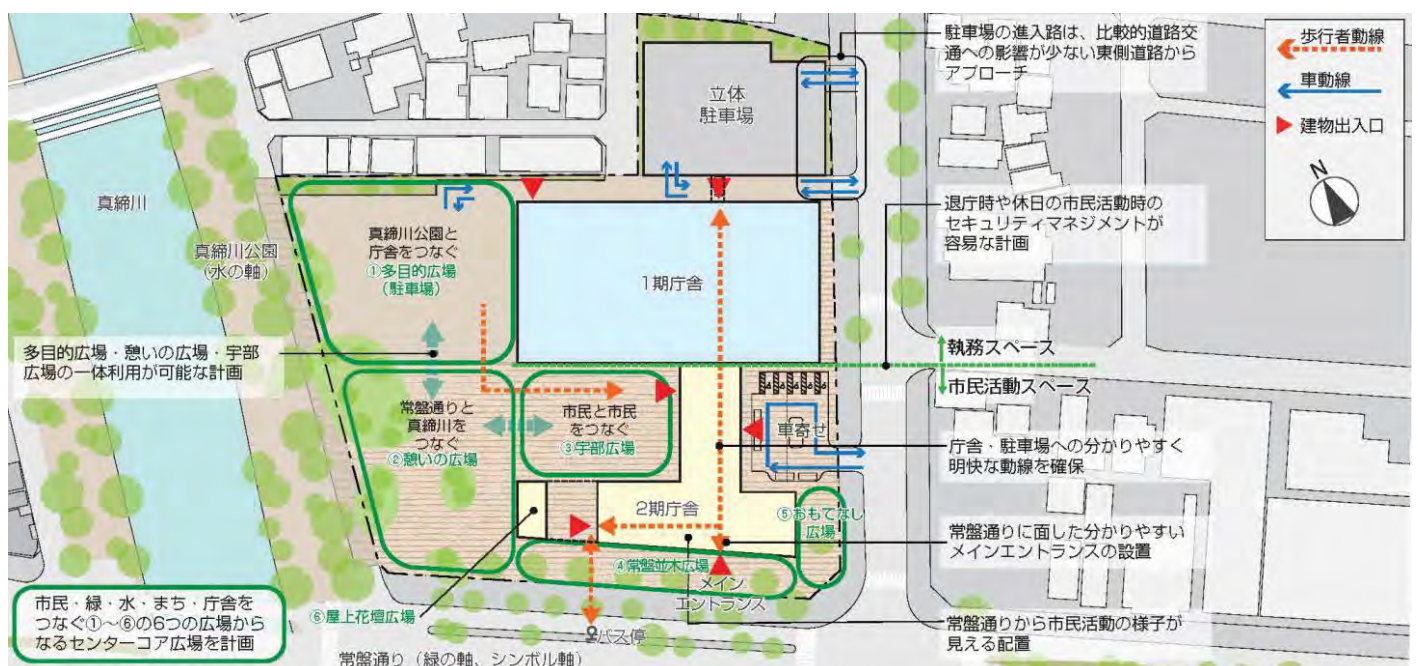
### 市民交流・協働を支え、宇部市民みんなに愛され、つくりあげられる場

- 明るく親しみやすい空間とし、市民が集う場とすることで、まちのにぎわいを創出する。
- 市民活動を育成する交流・協働の場、地域情報の発信を行う場を充実させる。
- 建設プロセスに市民が主体的に関わることで、永く愛され使い続けられる空間とする。

### 無駄がなく、時代の変化に対応しながら快適で安全に使い続けられる場

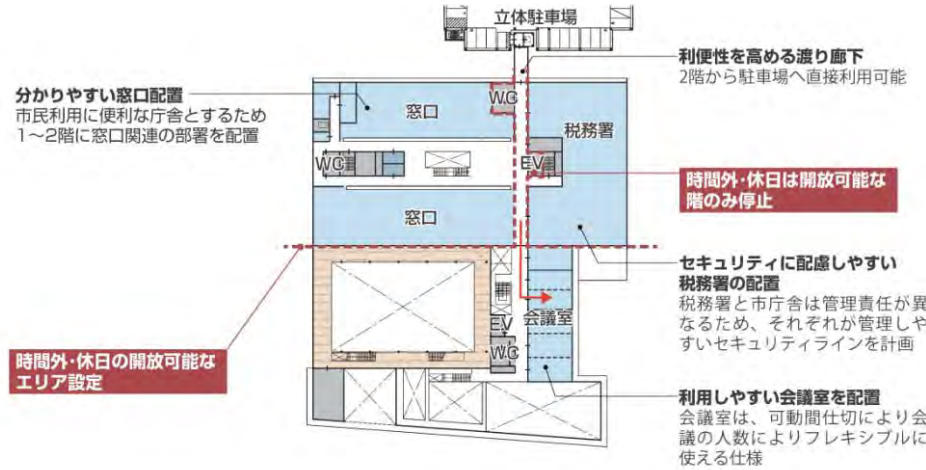
- 耐震性をはじめとした建物の十分な安全性を確保し、市民を守る防災拠点となる。
- ライフサイクルコスト（建設から維持・管理、解体までの建物の生涯にかかる費用）に配慮し、時代の変化に対応しながら使い続けられる無駄のない建物とする。
- 訪れる誰しもが快適で使いやすく、職員が効率的に働ける環境を整える。

## ◆ 配置計画

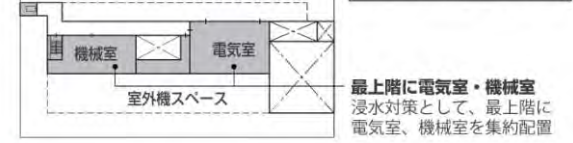


# ◆ 平面計画

## 2階 〈市民窓口・税務署フロア〉



## 6階 〈機械室フロア〉



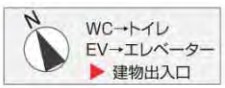
## 5階 〈議会・執務フロア〉



## 4階 〈執務フロア〉



## 3階 〈執務フロア〉



0m 5m 15m 30m

## 1階 〈市民窓口・市民活動交流フロア〉

**市民ワークショップで検討しました！**  
平成29年5月～9月に開催した市民ワークショップでは、基本計画で導入すべきとした「市民活動支援機能」と「まちづくり拠点機能」について議論が行ってまいりました。

**【まちづくり拠点機能】**  
1期庁舎と2期庁舎の間の中庭空間である「宇部広場」は、宇部まつり等に活用できる広場とし、常盤通りからイベントが見えるような形状にしました。

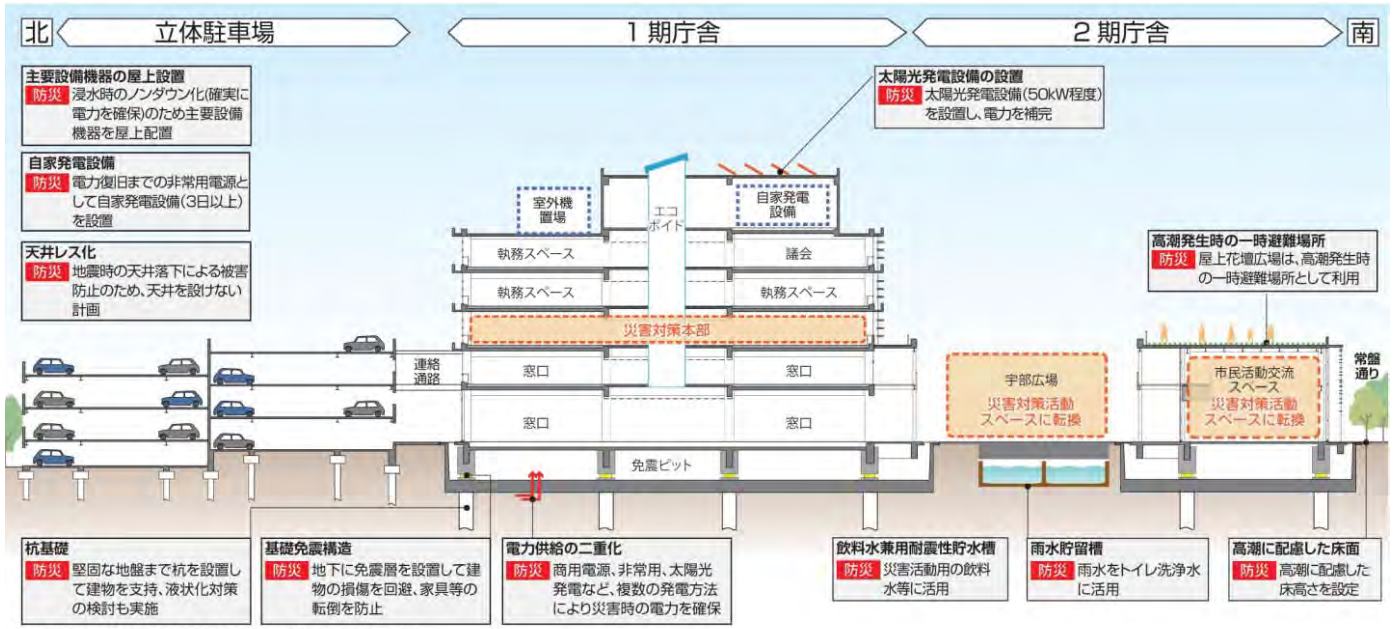
**【市民活動支援機能】**  
「多目的ホール」は、本格的なホールを望む意見と他の公共施設があるため無駄という意見とに分かれたこと、全体として複数の機能を兼ねた場づくりを望む声が多かったことから、本格的なホールは設けず、各機能が相互連携しやすく仕切りのないワンルームラウンジ型にまとめました。

**市民ワークショップでまとめたコンセプト**  
「みんなで使うまちなかの大きなロビー」



## ◆ 防災計画

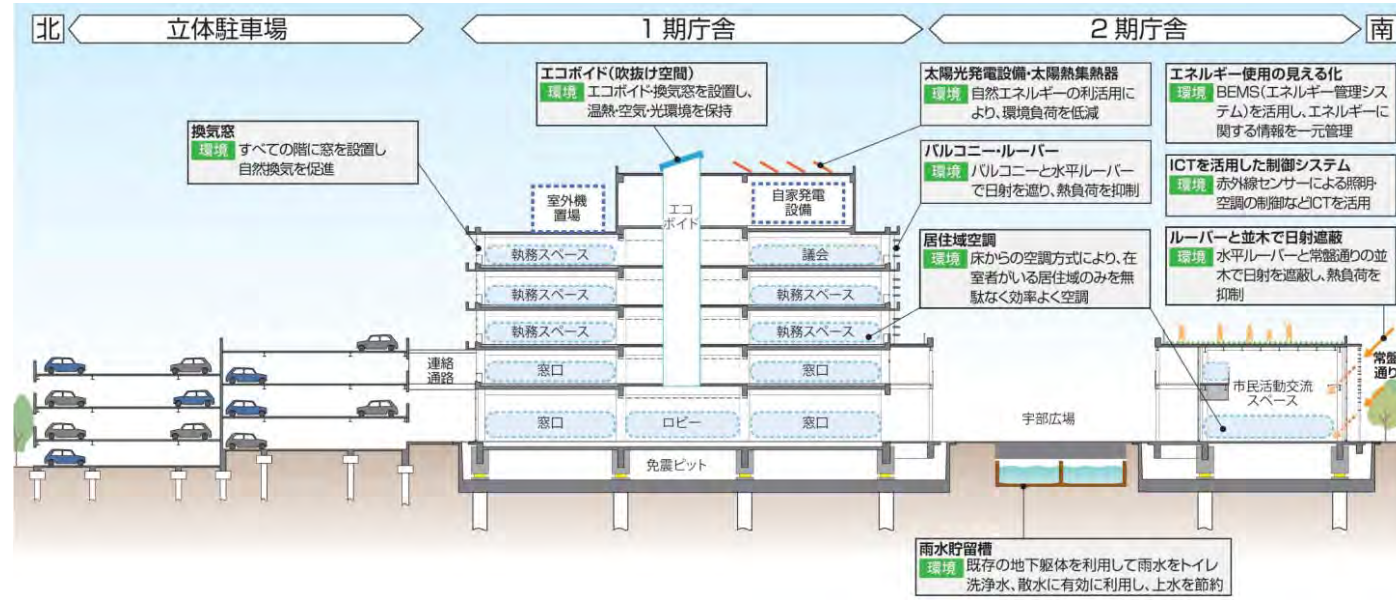
防災機能については、①地震、高潮・水害、台風、停電、火災などあらゆる災害を考慮し、災害発生後は直ちに災害対策本部に機能転換できる庁舎にします。②災害発生時における情報収集・伝達、関係機関との調整、対策活動の指揮など「司令塔」としての役割を發揮するため、大地震時に家具・備品などの転倒が少ない構造を採用。③災害対策活動に必要な設備や機能が平常時にも有効に利用できる、無駄のない災害拠点を目指します。



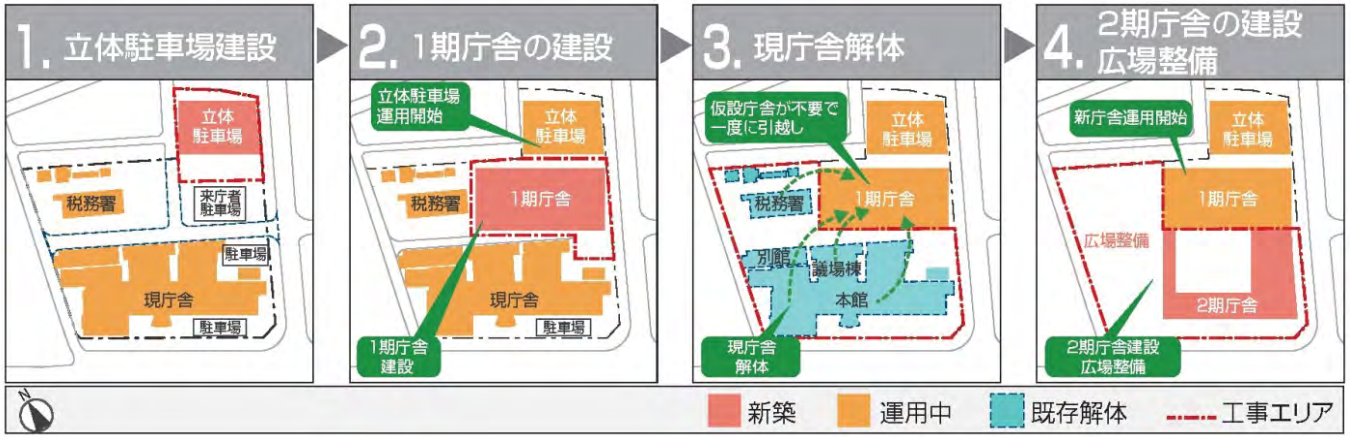
※構造システム(耐震・免震等)については、比較検討のうえ決定します。

## ◆ 環境計画

環境性能については、①負荷を元から絶つ ②自然の恵みを活かす ③再生可能エネルギーを活用する ④高効率で優れた設備システムを導入・構築する ⑤適切に運転制御し建物を効率的に運用する ⑥ワークスタイルを見直す という6つの観点に基づき、環境に優しいスマートビル庁舎を目指します。



## ◆ 建替計画



※ 1期庁舎の供用開始を市制100周年に合わせた場合の建設工程。

	平成30年度 (2018年)	平成31年度 (2019年)	平成32年度 (2020年)	平成33年度 (2021年)	平成34年度 (2022年)	平成35年度 (2023年)
立体駐車場	■					
1期庁舎		■				
解体				■		
2期庁舎					■	

市制100周年

## ◆ 概算事業費

■ 概算事業費 約113.5億円

基本計画の概算事業費「約108.1億円」をベースに、立体駐車場建設費を追加した試算額

■ 財源

概算事業費約113.5億円の財源を想定しています。

庁舎建設基金	市債	一般財源	合計
約47.6億円 (平成29年度末見込)	約58.7億円	約7.2億円	約113.5億円

【市債償還額の試算】

償還期間：25年（3年据置）、年利：1.6%の場合

● 元利合計 約72.5億円（うち利息約13.8億円）

● 1年あたりの負担 約3.2億円

基金のほか、国の財政措置をはじめ、活用できる補助制度等の調査・研究を行い、市の負担軽減に努めます。

## ご意見をお聞かせください ～パブリックコメント～

皆様のご意見を伺った上で、基本設計をまとめる予定です。

- 対象 市内に居住か通勤・通学する人
- 資料の閲覧・意見募集期間 12月15日（金）～1月12日（金）
- 閲覧場所 市役所、北部総合支所、各市民・ふれあいセンター、市ホームページ
- 提出方法 意見、該当ページ、住所、氏名、連絡先、市外の人は通勤先か学校名を記入し、持参、郵送、FAX、メールで提出
- 提出先・問い合わせ まちなか再生推進課 ☎34-8200 FAX22-6050  
E-mail machinaka@city.ube.yamaguchi.jp